

# その手があったか、

## リサイクル部品!!

### 〜車修理の新しい選択〜

ACTIVE KUMIAI

塩山車検センター協同組合(三森啓計理事長)では、組合の車検工場で中古部品を積極的に活用し、車の修理や車検料金の低廉化に取り組んでいる。

この事業は、使用済みとなった自動車から取り出したリサイクル部品の生産と販売を手がけるNGP日本自動車リサイクル事業協同組合が全国展開する「エコひろば」と提携して実現したもので、近年の若者の車離れや乗り換え延長などが進む中で、修理や車検料金の低減により顧客獲得のための差別化を図れるものと期待されている。

車の修理(車検時含む)の場合、修理費用の大半は部品代であると言う。組合の取り組みは、この部品にリサイクル品を積極的に使おうというもの。

リサイクル部品は大きく二種類に分けられ、再利用可能な部品を取り出したリサイクル部品と、分解して二部新品で補強したりビルド部品がある。これらの部品を使うと新品価格の3割から6割程度に部品代を安く抑えられ、トータルの費用をかなり圧縮できる。

日本では毎年400万台の車が廃車になっており、そのまま廃棄物になると400万トンもの廃棄量になるといわれている。この膨大な廃車を廃棄物ではなく、再生資源として活かそうとしているのが自動車リサイクル部品で、生産に新たなエネルギーを必要とせず、使える部品を再使用することから最も環境負荷の少ない資源の再利用方法といえる。加えてCO<sub>2</sub>削減効果にもつながることから、組合では、地球環境に配慮した車修理の新しい選択として広くユーザーに利用を呼びかけている。

なお取り扱う全てのリサイクル部品にはベルマークが付いており、学校など教育支援活動を通じての社会貢献にもつながり、組合のイメージアップに一役かっている。

ベルマーク付きの  
証明書



組合工場の風景